

第3回 武雄市新文化施設エリア整備基本計画策定委員会

日時 令和4年10月17日(火) 10:00~
 場所 武雄市文化会館小ホールホワイエ
 委員 小坂智子氏、三島伸雄氏、黒澤伸氏、朝長勇氏、田中友子氏、溝上剛氏、
 井上祐次氏、諸石信幸氏、鳥谷唯氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏
 (欠席者 大島久美枝氏)
 事務局 武雄市 文化課 松尾教育長
 こども教育部 文化課 新文化会館整備準備室
 生涯学習課
 シアターワークショップ 今川、金、古川

発言者	主な意見内容
① 意見聴取	
委員①	・様々なステークホルダーから意見聴取できていると認識している。
② 新文化施設エリア	
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・“融合”と、あえてクォーテーションマークをつけて、通常の融合とは異なるということをどのように意識すべきか。単なる創造ではなく、文化的なイノベーションを起こしたいということでも良いのではないか。武雄らしいイノベーションという視点を入れたい。 ・「つながりを持つ」というのは手段ではないか。最終的に何を起こすかということが重要。 ・事業計画については、どんな人材が生まれるかという視点も出てくると良い。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉自体は良いと考えるが、なぜ武雄で jazz なのか、という声が出てこないか。武雄には蘭学の歴史があり、イノベーションラボのような意味合いがあるのではないか。文化をキーワードとして、新しいものが創造されていく街になっていくという気概を感じられるワードが欲しい。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化を受け入れて新しいものを創り出す、という基本的な考え方は徹底している。どういう文言を選ぶと人々に訴えられるかという問題。 ・いろいろなこと・ものが一緒にいることができる・共存できるという点が融合という意味合いとして表れるのではないか。 ・事業計画とコンセプトが結びついていることがわかるよう整理する必要がある。参加⇒体験⇒人材育成⇒まちづくりといったステップアップを想像しやすいイメージ図があると良い。 ・融合の例として、熊本市現代美術館を挙げる。施設には子育て広場・キッズサロンが設置されており、子どもたちの声がすることが当たり前になっている。場が生まれることにより、今までと違う風景が日常となることもある。
委員④	・「文化融合施設」というと最初から混ぜこぜになるイメージだが、「文化融

	<p>合施設エリア」となると少し大きい意味合いになるので、イメージがしやすくなった。それぞれの開かれた居場所ということも大切だが、利己的な居場所ではなく利他的な広場があっても良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間経過とともに融合の過程が見えると良い。人材についていえば、まずはオーディエンスという立場を増やすことからスタートし、日常的な文化活動の拠点として今度はプレイヤーも増えていく。そして、彼らをサポートしていく人も増えていく。さらにはコーディネーター・プロデューサーも増えていく、といったように街中に文化へ関わる人が増えていくというイメージ。
委員⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・新文化施設エリアでの事業計画・取り組みが社会問題解決につながる取組になると良いと考える。例えば迎田緑地に実のなる木を植えて収穫する、太陽光パネルを設置するなど。
委員⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・感動体験があると生活が豊かになると考える。人に感動体験を与えられるような施設になることが、コンセプトや事業計画の中にあらわれていると良い。
委員⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・文化のまちづくり構想での検討内容を再認識する必要がある。
③ 導入機能・規模の検討	
委員⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の中では小ホールがなくなることに對する声が多い。多目的ホールについては庭園とのつながりを生かしたものとしたい。ガラス張りとして、ステージの重ね使いという視点もあるのではないか。 ・大ホールの楽屋も会議室利用ができるのではないか。リハーサル室を音楽室としても使えるなど、そういった重ね使いも是非検討したい。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・集約化していくことも重要だが、魅力化することも大事。ハードの内容と事業計画との関係性がわかるイメージが欲しい。さらに、コンセプトにある融合というキーワードがどこかに出てくる必要がある。 ・小会議室については、採算性に課題はあるかもしれないが、サークル活動により生み出すものがあることを鑑みると必要である、という考え方。対して、料理教室・創作活動が行われる諸室のように、固定的な設備が必要になる部分もある。それらをどのように整備し、文化的なイノベーションを起こしていくか、という考え方を記載すべき。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・この施設であればコンセプトを落とし込める、という見え方にすることで説得力が増える。魅力化・集約化は両輪として考えていくべき。 ・採算性・収益性については、運営手法を決める際にも検討する必要がある。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・施設機能について、防犯・防災の観点が入った方が良い。現状施設は暗くて怖い、人の目がないというイメージ。 ・集約化の視点は重要だと思うが、その分多機能化していくのが良いのではないか。小さいホールだけど音質が非常に良い、といった利点を付けるなど。 ・Wi-Fi 設備は必要になってくるだろう。 ・この敷地は緑に囲まれているのが印象的。このユニークさを活かして、他施設と差別化していくにはどうしたら良いか。例えば文化の森として、ここにくると文化芸術・アカデミックなところまで考えることができる・触

	<p>れることができる場所になっていくという視点もあるのではないかと。さらに、ビジネスとアートの接点を作るという視点もある。武雄の人以外にも訪れてもらい、文化を支援するような模式図を作れると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画について、市民が視点になっているので、アーティスト視点でも考えられると良い。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・重ね使いという視点はフュージョンの根拠になる。 ・全体計画の中では多目的ホールが施設の魅力になり得ると考える。 ・集約の仕方、機能面積を減らすことによってということだが、創作室が少し小さいのではないかと。2つの部屋をつなげて使えるなど。母屋と切り離しても良いかもしれない。舞台美術を作れるような、水も使える、溶接機も使える部屋をイメージする。 ・オープンキッチンについてはパティースペースのような部屋と連続した使い方ができると良い。 ・その他施設機能として、シェアオフィス・ラボ的機能があっても良い。子どもの部屋を専用を持つというのも良いアイデアではないかと。子どもが行っても良い施設というメッセージになる。 ・コミッションワークを設計時に考えることもあり得るのではないかと。アーティストに建物に付随したアート創作を依頼することで、それを目的とする人々が訪れる。また、隙間スペース・余白スペースを利用してアート作品を設置していくということでも良いのではないかと。
委員⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力化が必要ということだが、この場所の売りとして庭園がある。庭園を活かした施設計画とする必要がある。 ・多目的ホールについては、ギャラリー的な要素が必要という意見もあるため、対応できると良い。
委員⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄は災害が多いところ。避難所としての機能も考えていかないといけない。重ね使いできる部屋が活用できるのではないかと。障害を持っている方、高齢の方、いろいろな人が来ることを想定しておく必要がある。シャワー室を準備することも検討した方が良い。
委員⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室について、稼働率が低いということだが、使いたい日時が重なってしまう場合もある。使いたいときに使えるように、ある程度の会議室の数も必要。市役所利用を減らせる可能性があるのか、民間利用を優先することができるのかも検討すべき。
④ 大ホール長寿命化方針の検討	
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・設備等を現代対応したものにした場合、建て替えと同じコストかかってくるのではないかと。安全のためにボタンを電動化するのももちろん大事だが、すべて対応するのかどうかは事業内容による。例えば、オケ、吹奏楽に特化し、電気音響・演劇には多少不向き、という方向も考えられるのでは。音楽でなくても良いが、何かのジャンルに特化して、特徴を持たせて設備費を抑える方法もある。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・各改修内容について、どういった方法があるのかも付加してもらえると良い。
委員⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・県西部には同規模のホールはなく、わざわざ使ってくれているケースもある。

	・外壁、耐震対応どう考えていくかが課題であるとする。
⑤ 新文化施設エリア整備計画の検討 I	
委員②	・現在の文化会館は施設配置がわかりにくく、アクセスしにくい。敷地近隣の川沿い、周辺の整備もいずれ必要になるのではないかと。敷地周辺という言葉も入れて、課題を挙げてほしい。